

# 第1回 北海道森林管理局国有林材供給調整検討委員会 (概要)

平成26年度 第1回北海道森林管理局国有林材供給調整検討委員会において、北海道の木材需給の状況など活発な意見交換が行われました。主な意見につきましては「3」のとおりです。

## 1. 日時

平成26年6月16日(月曜日) 13時30分～15時40分

## 2. 会場

北海道森林管理局 3階 大会議室

## 3. 主な意見

- 道内の製材工場等においては、原木在庫量が1.5～3ヶ月程度まで手当てされ、昨年度の在庫不足も回復傾向にある。昨年度のような原木不足が生じないよう市場には常時一定量の原木供給が必要。
- 現在もカラマツの梱包材、パレット材を取り扱っている事業者は忙しく、どこの工場も1ヶ月程度の受注を抱えているのではないかと。
- 昨年度のような原木不足の状況までには至らないが、一年間を通して見た場合、カラマツの原木調達はどここの地域でも厳しい状況が続くものと予想。なお、地域によって資源状況が異なるため、地域単位での供給調整が重要。
- 昨年の道内の原木不足を踏まえ、年度末にかけて国有林が実施した3万㎡の追加販売(委託販売(一般公売))は、原木不足の市場等にかなり良い影響を与えたと感じている。引き続き適期に供給調整を行うことが重要。
- 地域によっては運材車が不足しているため、山土場に購入した素材があっても直ぐに搬出できない状況が現れている。木材の安定供給を図るためには、そのようなことも課題として捉えて関係者で対応することが必要ではないかと。
- 素材のシステム販売は約26万㎡を計画されているが、年度後半に大量に出材するのではなく、早い時期から一年を通して平準化した出材が必要。

## 4. 検討結果

道内の木材需給状況や各委員の発言を踏まえ、現時点で国有林材の供給調整を行う必要はないとの意見集約が得られたところ。